

テーマ：貿易統計（2011年11月）
発表日：2011年12月21日（水）
～輸出は2ヶ月連続の減少。先行きも低調に推移する見込み～
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
				輸出金額	輸入金額			アメリカ	EU	アジア			アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比			前年比	前年比	前年比			前年比	前年比	前年比
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
10	1月	431	5934	40.9	9.3	41.3	17.8	14.0	63.6	2.2	3.6	▲ 0.5	5.6		
	2月	6383	4974	45.3	29.8	45.9	46.1	15.4	53.4	23.0	4.5	13.7	39.5		
	3月	9319	8621	43.4	21.0	43.9	29.4	28.2	48.9	17.0	6.3	16.5	17.6		
	4月	7292	8684	40.4	24.5	39.6	38.2	32.3	40.6	17.7	21.2	13.1	19.8		
	5月	3091	5264	32.1	33.7	31.8	19.3	34.6	28.2	22.3	24.7	22.2	27.5		
	6月	6705	5018	27.7	26.5	27.4	27.4	27.0	26.6	18.1	24.9	23.5	19.2		
	7月	7846	5393	23.5	16.1	25.5	27.5	31.5	22.9	13.9	22.0	23.9	14.3		
	8月	638	5078	15.5	18.4	14.2	11.5	26.7	14.6	19.2	18.1	16.5	20.9		
	9月	7743	3833	14.3	10.3	16.1	17.0	29.1	14.6	10.6	7.5	10.0	13.4		
	10月	8126	4957	7.8	8.9	5.3	9.5	11.3	5.9	5.8	▲ 11.1	11.5	7.9		
	11月	1576	3971	9.1	14.3	9.1	11.1	25.8	11.3	15.4	20.8	1.8	19.7		
	12月	7196	4148	12.9	10.7	11.4	16.3	22.1	11.6	7.8	▲ 1.9	3.1	10.7		
11	1月	▲ 4794	1764	1.4	12.2	2.3	14.5	13.4	▲ 1.8	11.2	5.9	6.3	13.6		
	2月	6503	4882	9.0	10.0	9.2	3.7	22.1	11.0	4.9	10.9	9.5	4.1		
	3月	1863	753	▲ 2.3	12.0	▲ 3.3	0.9	8.4	▲ 1.1	5.5	1.6	▲ 5.7	14.4		
	4月	▲ 4677	▲ 4416	▲ 12.4	9.0	▲ 11.6	▲ 21.2	▲ 8.5	▲ 6.4	1.3	7.5	18.9	1.8		
	5月	▲ 8573	▲ 4600	▲ 10.3	12.4	▲ 10.8	▲ 9.9	▲ 12.3	▲ 7.9	5.5	13.7	4.7	6.1		
	6月	673	▲ 2178	▲ 1.6	9.8	▲ 2.7	▲ 2.5	2.2	▲ 2.5	1.7	▲ 1.0	▲ 1.9	5.1		
	7月	679	▲ 1736	▲ 3.4	9.9	▲ 5.3	▲ 5.7	1.8	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 4.3	2.2	0.5		
	8月	▲ 7796	▲ 3342	2.8	19.2	0.9	6.1	4.2	▲ 1.8	6.0	12.4	9.4	8.6		
	9月	2939	▲ 1050	2.3	12.2	1.5	▲ 0.4	3.2	▲ 2.8	1.0	3.7	9.8	0.6		
	10月	▲ 2802	▲ 4957	▲ 3.8	17.9	▲ 3.9	▲ 4.7	▲ 2.1	▲ 7.2	6.0	14.2	9.2	5.0		
	11月	▲ 6847	▲ 5379	▲ 4.5	11.4	▲ 4.5	▲ 3.6	▲ 11.2	▲ 9.4	▲ 1.0	▲ 3.6	22.5	▲ 5.5		

（出所）財務省「貿易統計」

○ 輸出が2ヶ月連続で減少

財務省より発表された2011年11月の貿易統計では、輸出金額が前年比▲4.5%と2ヶ月連続で減少し、減少幅も前月（同▲3.8%）から拡大した。市場予想（前年比▲3.6%）を下回る弱い結果である。輸出金額の季節調整値も前月比▲2.6%（10月：同▲4.0%）と2ヶ月連続で減少、物価変動の影響を除いた実質輸出（日本銀行試算ベース）で見ても前月比▲2.4%と減少したとみられる。実質輸出は10月に同▲4.9%と大きく減少した後にもかかわらず、2ヶ月連続で大きく落ち込んだ。輸出は6月以降、おおむね横ばい圏内で推移していたが、足元では減少基調に転じた可能性があるだろう。なお、11月はタイの洪水の影響で押し下げられた面もあるとみられるが、影響が大きかった自動車や輸送用機械以外の財でも全般的に弱い動きが目立ったことから考えると、11月の落ち込みをタイ要因のみで説明することは難しい。海外需要の減速やIT需要の低迷、円高による押し下げ圧力の強まり等が輸出を下押ししているとみられる。先行きについても、タイの洪水の影響は次第に一巡することが予想されるが、その他の下押し材料については容易に解消されるものではないため、輸出は低調な推移が続く可能性が高いだろう。

10、11月の2か月分の貿易統計の結果を踏まえると、10-12月期のGDPベース実質輸出は前期比▲2.9%、実質輸入は同+0.7%と試算される。外需寄与度では前期比▲0.6%ポイント、前期比年率で▲2.3%ポイントである。7-9月期には外需寄与度が前期比年率で+2.3%ポイントとなり、GDPの牽引役となっていたが、10-12月期には一転して外需がGDPを大幅に押し下げる可能性が高いだろう。弊社では、こうした外需の下押しを背景に、10-12月期のGDPはマイナス成長に転じる可能性が高いと予想している。

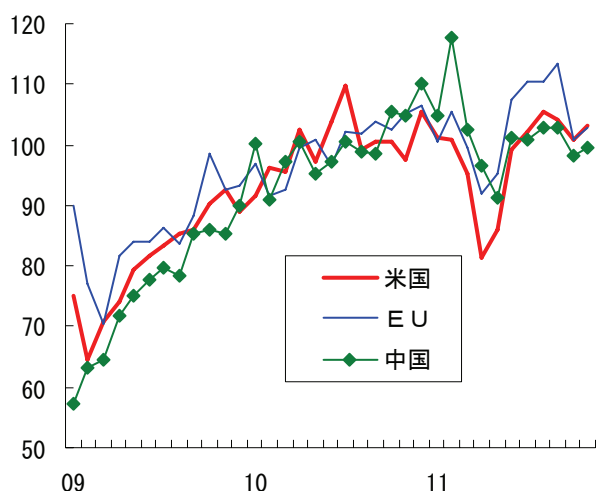
○ 当面、貿易赤字が続く見込み

こうした輸出の下振れに加え、輸入金額も前年比+11.4%と高い伸びを保った（市場予想：同+8.3%）ことから、貿易収支は6847億円の赤字となった。事前予想である4553億円の赤字を下回っており、季節調整値では5379億円の赤字である。季節調整値では8ヶ月連続の赤字であり、赤字幅も10月の4957億円から拡大している。先行きについても、輸出の低迷が予想されるなか、輸入は高い伸びを保つとみられることから、貿易収支は当面赤字が持続する可能性が高いだろう。

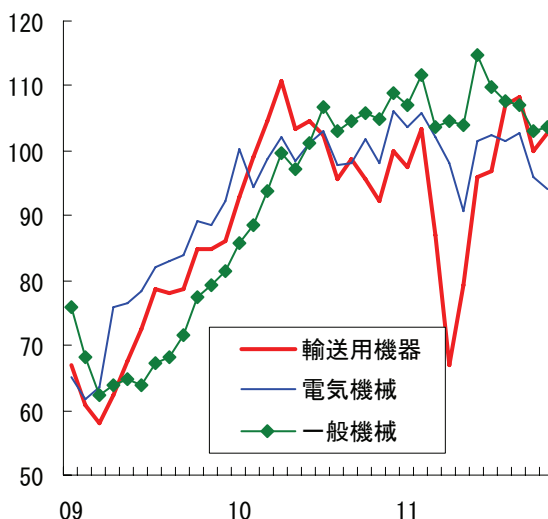
○ 地域別の動向

実質輸出（実質化と季節調整は筆者）を地域別にみると、米国向けが前月比+2.3%と増加したが、10月の落ち込み分（▲3.3%）を取り戻しきれておらず、足元では足踏みとなっている。また、特に落ち込みが目立つのがEU向けである。前月比では同+2.1%と増加したが、10月に同▲11.4%と急減した後の戻りにしてはいかにも弱く、10-11月平均の値は7-9月期の水準を8.6%も下回っている。欧州経済は先行き悪化の度合いを強めていく可能性が高いため、EU向け輸出の減少が今後の輸出の足を引っ張ると予想される。また、アジア向け輸出は同横ばい（10月：同▲4.6%）だった。アジア向けは、震災前の水準を依然として下回っており、低調な推移が続いている。過去の金融引き締めの影響が残存していることや、アジアからの欧米向け輸出の低迷などが影響していると考えられる。その他、中東向けが同▲13.6%、ロシア向けが同▲8.4%と大きく落ち込んでいる。

（10年=100） 実質輸出（季調値）



（10年=100） 実質輸出（季調値）



（出所）財務省「貿易統計」

（注）実質化と季節調整は第一生命経済研究所